（第三種郵便物認可）

『郷土芸術賞』に輝く

〈2〉

受賞者の横顔

小畑恵一さん
（箏曲）

琴の普及に執念

48年に米国で演奏旅行

四十八年一月にはＹＭＣＡ日米文化交流団の一員としてアメリカ各地を約一カ月間演奏旅行するなど、国際的にもその実力は認められている。一方、釧路では年に一度の発表会や三年に一回のリサイタルと発表の機会も多い。やはり「琴を音楽として理解してもらえないのは寂しい。これらは技術的な問題でもあるが、聞く人に〝よかった〟という何かが残ればいいのですが―」という。

最近は現代的な音楽がどんどん出てきており、古典にこだわらずマスターすることが必要だ―と幅広い琴の奏者を目ざしている。宮城道雄師の男性最後の門下生で、いまでも思い出が脳裏に焼きついているという。「とにかく私たちにとっては自分を磨くことが技術向上につながるので、これからも大いに琴の普及に努めたい―」その表情には、おだやかななかに厳しい芸への執念が感じられた。

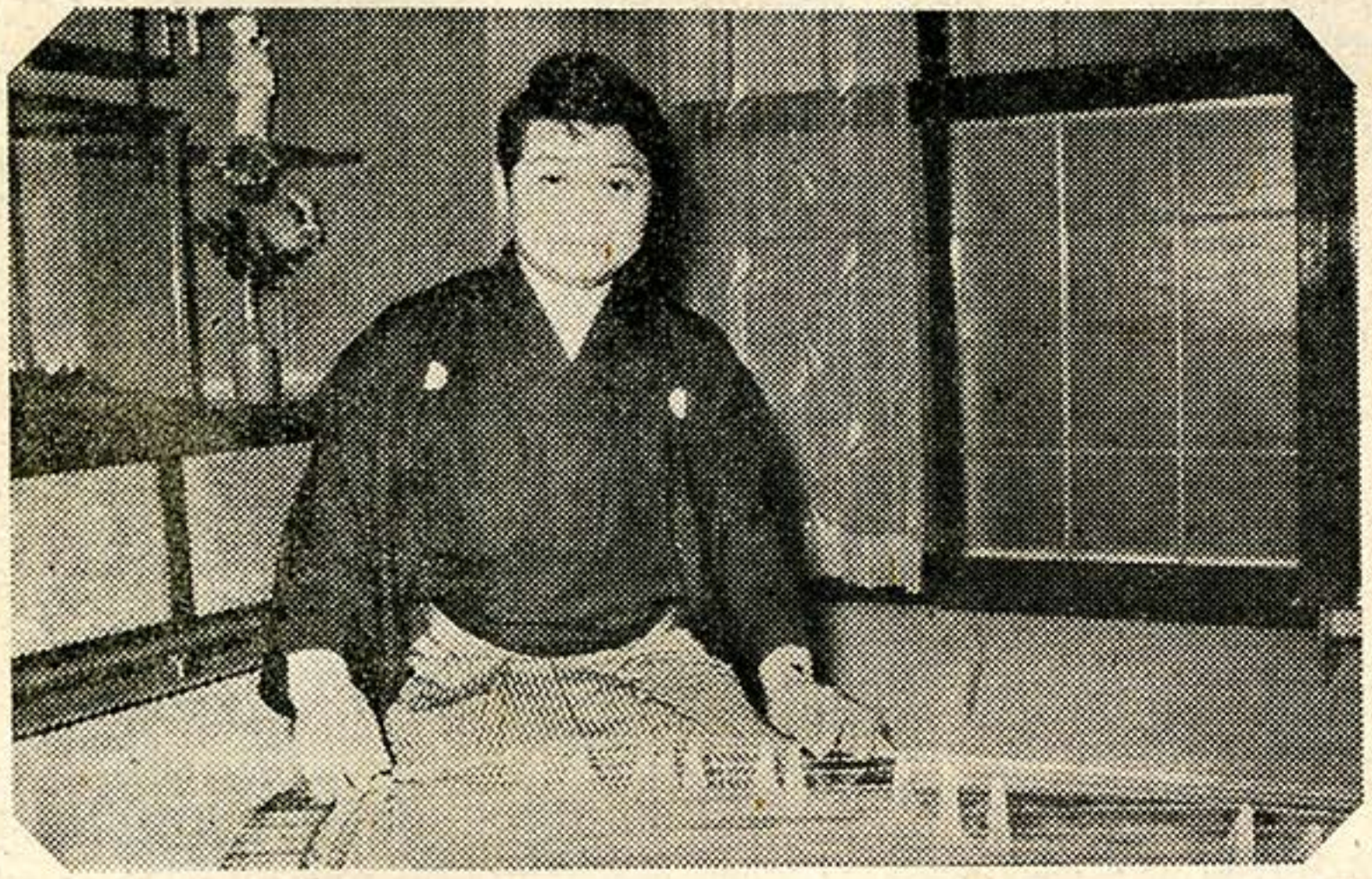
◇　◇　◇

昭和九年四月二十七日生まれ。同十六年三月現旭小学校から東中学校へ。二十六年三月道立釧路高校（現湖陵高校）二十八年三月卒業、同年東京で故宮城道雄氏に師事するとともに若手芸能育成会に所属。二十九年四月には東京芸大別科の箏曲科へ入学、三十一年三月釧路に戻った。四十八年一月にはＹＭＣＡ日米文化交流の一員としてアメリカへ渡り演奏活動を行った。四十一歳。

八歳から琴を始めたが、当時は熱心な父親の勧めで何となく手にしたそうで、最初山田流の門下生としてこの道にはいった。しかし戦争のぼっ発で一時中断、その後中学二年から三谷キワさんに師事、流派も生田流宮城派に変わった。このころから琴の魅力に強くひかれるようになり「何とか琴で独り立ちしたい―」という意欲が小畑さんの心に芽生え始めた。高校二年で免状をもらい、二十八年三月道立釧路高校（現湖陵高校）卒業と同時に東京へ。

故宮城道雄さんの門をたたいたのが同年五月だった。宮城道雄さんに師事するかたわら、ＮＨＫ主催の若手芸能育成会の長唄、邦楽の勉強にも通い続けた。さらに二十九年四月、東京芸大別科の箏曲学科に入学した。卒業まで大阪歌舞伎座やテレビの劇音楽の仕事をしながら貪欲に勉強に励んだ。

こうして三十一年三月、生まれ故郷の釧路へと戻りお弟子さんをとりながらの生活が始まった。いまから思えば「中学生の時、宮城道雄さんの師匠唯是震一さんとの出会いが私の進むべき道を決めるのに大きく左右した」というとおり、小畑さんの琴の道への指向はたまたま来釧した唯是さんの話を聞いたことで決定的になった。



現代に通じる幅広い箏曲へ―と小畑さん